

令和6年度 学校経営計画・学校評価			□4月4日提出	□10月3日提出	■3月14日提出	学校番号	41	中村	高等学校	課程	全
高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人		基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備							
	【アドミッション・ポリシー】(入学受入れ方針) ○自己の夢や目標を実現したいという強い意志を持った生徒 ○自主的かつ意欲的に学習への取組ができる生徒 ○部活動や生徒会活動等にも熱心に取り組める生徒 ○基本的な生活習慣が身に付いている生徒 ○素直でやさしく、思いやりを持った行動ができる生徒 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○学ぶ意欲を育み、主体的に学ぶ力を育成 ○部活動等の自主活動を奨励し、自ら実行する力を育成 ○探究学習を通して、①情報収集力、②課題発見力、③連携力、④思考と判断、⑤表現と発信の5つの力を育成 ○勉強力・実行力・探究力をバランスよく育成			【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○2年生からコース制(人文型・自然型)により進路選択に対応 ○2年生からより深く学べる希望制の特別進学クラスを編成 ○総合的な探究の時間では自分・地域・未来についての探究学習を実施 ○英語の授業では「ラウンドシステム」による繰り返し学習を実施 ○文化祭・体育祭などの学校行事や部活動の一部は中高合同で実施							
スクール・ポリシー											

学校関係者評価		
【学力の向上】	評価	【 B 】
・県アンケート「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」の肯定回答が95%以上というのは素晴らしいことと思います。常にまじめに取り組む姿勢は素晴らしいです。 ・学力の定着度、家庭学習時間等ある一定目標を達成しているように思う。授業外学習時間は伸びたが自主学習の仕方を理解している肯定回答の割合は伸びてないので、理解を深めると学習効率はもっと良くなると思う。		
【社会性の育成】	評価	【 B 】
・中・高異学年で取り組むピア・チューターが浸透してきたと思います。幡多地域のことをもっともっと知ってほしいと思います。 ・ボランティア活動が活発に行われている。 ・直接人と接しなくてもいい世の中になりつつある現在、高校生がこのような視点を大切にしながら日々指導してくれているだけでも感心します。家庭、保・幼・小・中でもっと頑張っていく必要がある。 ・学校だけでなく、各家庭を巻き込んだ取り組みも必要である。		
【チーム学校】	評価	【 A 】
・地域とともに歩み続ける中村高校であってほしい。学校も会社と同じように数年先を見据えた経営ビジョンを立てたい。それを先生と生徒と地域が一緒になって築くことが大事だと思う。 ・高校生の落ち着いた生活ぶりから考えると、職員も管理職を中心にまとまっていると考えている。 ・保護者に情報が行き届いていないところが気になった。		

						(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分		
		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	○C層以上の生徒の増加 ・平均点(英数国)10ポイント増 ○授業外学習時間の増加 ・1日平均学習時間1時間以上 《1年48分、2年51分、3年136分》 ○県アンケート「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」肯定回答95%以上 《1年91.5%、2年94.8%、3年93.9%》 ○県アンケート「自主学習の仕方を理解している」肯定回答80%以上 《1年70.3%、2年75.8%、3年87.1%》	○課題テストや授業課題等による家庭学習時間の確保 ○大学進学講座や模擬試験等の実施 ○ICT活用や振り返りを重視した授業の実施及び中高教員相互による参観	B ○C層以上の生徒の割合(7月模試) ・1年:11.9ポイント増 ・2年:11.4ポイント増 ○授業外学習時間(1日平均) ・1年:60分・2年54分・3年88分 ○第1回県アンケート ・「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」肯定回答1年96.6%、2年94.9%、3年95.3% ・「自主学習の仕方を理解している」肯定回答1年83.3%、2年77.5%、3年81.6%	○課題テストや授業課題等による家庭学習時間の確保 ○大学進学講座や模擬試験等の実施 ○ICT活用や振り返りを重視した授業の実施及び中高教員相互による参観	B ○C層以上の生徒の割合(11月模試) ・1年:12.8ポイント増 ・2年:10ポイント増 ○授業外学習時間(1日平均) ・1年:94分・2年83分・3年156分 ○第2回県アンケート ・「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」肯定回答1年91.4%、2年92.5%、3年96.6% ・「自主学習の仕方を理解している」肯定回答1年79.3%、2年76.0%、3年93.9%	○確認テストや小テスト、授業課題等による家庭学習の推進 ○振り返りを重視した授業の実施及び中高教員相互による参観の継続実施
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○県アンケート「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」(あてはまる)70%以上 《1年50.3%、2年58.2%、3年68.7%》 ○県アンケート「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」(あてはまる)70%以上 《1年55.2%、2年59.5%、3年73.5%》	○生徒会や生徒実行員会による学校行事(体育祭・文化祭)の計画・実施 ○中高異学年で取り組むピア・チューターの実施 ○地域の人々にインタビューする地域課題探究(アクション)の実施 ○中高教員によるSOSの出し方に関する研究の実施	B ○第1回県アンケート ・「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」(あてはまる)1年75.3%、2年62.2%、3年64.6% ・「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」(あてはまる)1年75.3%、2年62.2%、3年61.9%	○中高異学年で取り組むピア・チューター ○地域の人々にインタビューする地域課題探究(アクション)の実施	B ○第2回県アンケート ・「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」(あてはまる)1年70.1%、2年58.0%、3年68.9% ・「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」(あてはまる)1年71.8%、2年62.3%、3年70.3%	○生徒主体の学校行事の実施(体育祭・文化祭等) ○中高連携の取組の実施(ピア・チューター、SOSの出し方に関する研究)
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○県アンケート「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」高3肯定回答70%以上《80.3%》 ○県アンケート「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」高3肯定回答80%以上《72.8%》	○地域の人々にインタビューする地域課題探究(アクション)等による地域理解の促進 ○地域でのボランティア活動の募集 ○部活動単位での地域貢献活動(イベント等の参加)	B ○第1回県アンケート ・「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」高3肯定回答63.9% ・「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」高3肯定回答85.7%	○地域の人々にインタビューする地域課題探究(アクション)の実施 ○ボランティア活動の周知 ○地域のイベント等への参加	A ○第2回県アンケート ・「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」高3肯定回答79.0% ・「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」高3肯定回答93.9%	○課題探究を通じての地域理解の促進 ○ボランティア活動の積極的な周知
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○総合的な探究の時間における探究活動の発表回数3回以上 ○県アンケート「高校入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」高3肯定回答70%以上	○地域の人々にインタビューする地域課題探究(アクション)の実施 ○探究学習の中間発表及び成果発表会の実施	B ○総合的な探究の時間における探究活動の発表:高1・高2各1回実施 ○第1回県アンケート ・「高校入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」高3肯定回答77.6%	○地域の人々にインタビューする地域課題探究(アクション)の実施 ○探究学習の成果発表会の実施	A ○総合的な探究の時間における探究活動の発表:高1・高2各3回実施 ○第2回県アンケート ・「高校入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」高3肯定回答82.4%	○探究学習の教材を導入することによる質の向上

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○10年、20年後の姿を意識させる進路指導の充実 ○学校全体での地域貢献	○学校運営協議会の開催:2回 ○国公立大学の合格割合:35%以上 ○高校入試の志願者数増(R5:127名、R4:133名、R3:93名)	○部活動単位の地域貢献活動(イベント等)の参加 ○学校説明会や体験入学による学校PR ○保護者等への適時な情報発信(HP、Classi)	B ○学校運営協議会(R6.7.11開催) ○大学共通テスト受験希望者数128名(84.2%) ○学校説明会の実施:14校 ○体験入学参加希望生徒:17校207名	○学校運営協議会(R7.2月予定) ○保護者等への情報発信(HP、Classi)	B ○学校運営協議会年2回開催(7月・2月) ○国公立合格者数(総合型、学校推薦I・前期)52名(34.7%) ○高校入試志願者137名(1/31時点)	○中学生と保護者等へ学校情報のこまめな発信(HP、Classi)
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○現状課題 ・ハラスメントについての理解徹底 ・風通しの良い職場環境づくり ○校内研修の実施回数:3回以上 ○不祥事防止委員会の実施回数:3回以上	○職朝や職員会等における定期的な服務規律の確保 ○定期的な不祥事防止委員会の実施 ○校内研修及びチェックリストの実施	B ○不祥事チェックリスト(R6.6月実施) ○校内研修(R6.4.1、R6.6.10実施) ○不祥事防止委員会(R6.6.3、R6.7.8実施)	○職朝や職員会等における定期的な服務規律の確保 ○校内研修及びチェックリストの実施	B ○不祥事チェックリスト3回実施(6月・11月・2月) ○校内研修3回実施(4月・6月・11月) ○不祥事防止委員会4回実施(6月・7月・10月・1月)	○不祥事チェックリストの見直し ○教員が自分事として考える校内研修の実施
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○安心・安全な職場環境 ○仕事への充実感の獲得	○時間外在校等時間前年度比3%以上減 ○働き方アンケート「多忙感の解消につながっている」肯定回答70%以上	○教員業務支援員、部活動指導員の活用 ○会議時間の短縮・ペーパーレス化 ○在校等時間管理システムによる時間外在校時間の把握	B ○時間外在校等時間前年度比3%減(9月末時点) ○第1回働き方アンケート ・「多忙感の解消につながっている」肯定回答77.8%	○教員業務支援員、部活動指導員の活用 ○在校等時間管理システムによる時間外在校時間の把握 ○働き方アンケートの実施	B ○時間外在校等時間前年度比4.8%減(1月末時点) ○第2回働き方アンケート ・「多忙感の解消につながっている」肯定回答71.1%	○時間外の会議等の精選 ○時間外在校時間に基づいた声かけ